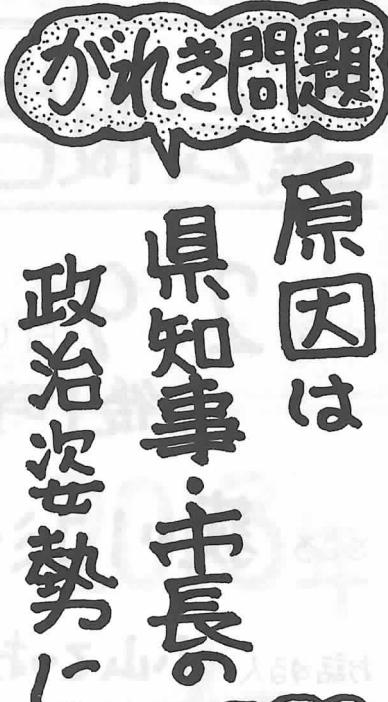


「がれき問題」での議員団の活動

- 3月16日 東日本大震災で発生したがれき受け入れに関する
決議、可決。私(小山)が賛成討論
- 4月 1日 「市議会速報」で「議員団の見解、発表」
11日 議員団、廃棄物施設課から説明を受ける
24日~25日 市議会、現地視察に参加。
- 5月 7日 新田清掃センター、第4赤堀埋立処分地視察調査
8日 亀田清掃センター、太夫浜処分地視察調査
10日 「がれき問題」(安全対策等)で市長申入れ(第1回)
20日~22日 岩手県・宮城県「がれき」視察調査
28日 視察調査報告集会
- 6月21日 6月議会一般質問(小山議員)
- 7月26日~9月9日 がれき住民説明会傍聴(のべ30ヶ所)
9月 7日 「がれき問題」(住民合意がないままでの災害廃棄物の試験焼却は行わないこと)で市長申入れ(第2回)
- 18日 9月議会一般質問(明戸議員)
- 10月 2日 " 修正動議提案(小山議員)
- 11月15日 「がれき問題」(試験焼却)で市長申入れ(第3回)
12月10日 12月議会一般質問(小山議員)

混迷を深める新潟市の災害廃棄物(がれき)の受け入れ。篠田市長は、その原因を水銀や鉛などが基準値を超えた、新潟市特有の問題と東田知事の発言など、「新潟固有の問題」にあるなどといいます。議員団はこれらの問題について、議会質問を申し入れ



市民の理解と合意を得る3つの提案

- 受け入れ災害廃棄物の安全性、焼却施設と埋め立て施設の安全性の確保を具体的に行うこと。
- 万一の風評被害、健康被害には、市が責任をもって補償することを明らかにすること。
- こうした説明を市長自らが行い、国や県とも本腰を入れて働きかけること。

その後か

社会を変えるには

党合意

渡辺治の政
治学入門
一。安倍政
権は、「二

ら新自由主義の矛盾が爆発。貧困と格差に反対する運動、改善をくい止めねば、この運動により新自由主義と軍事大國化の進行が停滞し、平和運動や反新自由主義の運動が、民主党を変え、その変わった民主党に国民が期待して政権交代しました。

新自由主義、日米軍事同盟の危機を感じたアメリカ・財界は、マスクの加担も背景に猛烈な巻き返しにごる。普天間基地問題で、迷走した鳩山政権は倒壊。代わった菅政権は、いち早く新自由主義

歴史的な総選挙は、自民党的「大勝」だった。自民党政権から政権交代した民主党政権が、国民への公約を裏切り続けた国民の怒りと批判の表れだろう。選挙後、早くも自公を中心とした大連立政治への画策が始めた。そこでも私たちがいる、どんな位置にあり、立ち向かっているのが展望しきみよう。

民主党政権の成立と交渉により長い歴史の文脈の中で振り返ってみる。1990年代初頭、冷戦の終えんを区切りとして軍事大國化と国際競争力強化をめざす日本の新自由主義改革の時代が始まり、小泉政権で頂点に達した。

しかし、野田政権は、財界やマスコミの垂涎にこたえ、民自公・ニ党による構造改革の断行に舵を切る。その構造改革の「触媒」とされたのが、社会保障と税の一体改革。野田政権が消費税引き上げと一体改革を強行した理由はここにある(渡辺治著、「誕生する。」)

回帰を打ち出す。

だが財界の最大の不満は、新自由主義改革を強行できる唯一の道が自民党・公明党との「大連立」なのは明らかなのに、菅政権が全く動かなかつたことだ。保守層の苛立ちが菅政権を倒し、野田政権が誕生する。